

*校訓；「本気」 *学校教育目標；「生き生きと学ぶ子」・「心の豊かな子」・「はつらつと健康な子」

三島立東小学校長 渡辺 輝彦

“学校”の、知られていない・見えない部分 <その1>

明治22年（1889年）に、山形県鶴岡町私立忠愛小学校にて、貧困児童を対象にして昼食を与えたのが、「学校給食」の始まりと言われています。この給食も、現在の「学校給食」のように、学校で調理された食事を教室で給したものだそうです。（当時の給食は、「おにぎり・焼き魚・漬け物」でした。）

皆さんも食してこられた「学校給食」は、もう無くてはならないものになっています。本校は「自校の給食室で作られた給食」ですが、中には、「センターで作られた給食」を食べてこられた方もいらっしゃるでしょう。……そんな「学校給食」ですが、意外とく**“学校”の知られていない・見えない部分**>かもしれません。

まず、栄養士は、毎朝、**調理員(その家族まで)の健康観察**から始め、**給食室の水道の残留塩素**を測定します。（『日常点検票』には94ものチェック項目が並んでいました。）

そして、調理員と共に、**業者から届く食品をきめ細かく検査**し、「メーカー名」や「産地」、「異物の混入」から「包装の破れ」まで調べ、確実に記録していきます。とにかく、**“安全・安心”**を心がけているのです。

その後、調理員とその日の献立を確認しながら、**調理の工程・作業の段取り**を行うのです。

なお、献立表には「1食分のエネルギー（カロリー）」まで記されていますが、当然のことながら、これを元に、低・中・高学年、そして教職員のそれぞれに必要な量を計算して作っていくのです。

さらに、その日に作られた“給食”と使われた“食材（50gずつ）”は全て、**2週間保冷庫に保管**されます。これも、**“安心・安全”**を保障するためです。なお、保管期限の2週間を経過した食材は、新しい献立作りや調理法の向上のために、調理員が有効に活用しているそうです。こうして絶えず、**1食分・「250円」**という金額での、栄養バランスのとれた、おいしい給食づくりを研究し続けているのです。



*三島市自慢の「**米飯給食**」。
各教室に「電気釜」ごと、熱々のご飯が届けられます。本校は、25基の釜でご飯が炊かれています。



*給食室内の「**食材保冷庫**」。これとは別に、毎日の作られた給食や、日々出された牛乳まで全て保管される「**保冷庫**」も並んでいます。

子どもたちに給食を出す前には、毎日必ず、**校長・教頭が「検食」**を行うことも付けておきましょう。給食に異常がないかどうかを確かめるために、先に食べて、『**検食簿**』にチェックしていきます。いわゆる“毒見（？）”をするのです。

子どもたちには、こうした栄養士や調理員の日々の努力を、“残食0”という形で応えて欲しいのですが、**4月から9月までの、本校の平均残食率は、「2.0%」**でした。（ちなみに、市内の小中学校の平均は、「**1.6%**」です。）そこで、今月下旬から、

“残食0”を達成できたクラスに、『**もりもり賞**』というミニ賞状を授与して励ましています。少しずつ効果が見られ始めていますが、どうやら、本校の子どもたちは、「野菜」類が苦手なようです。ご家庭の食事でもその点にご配慮いただき、お子さんの健やかな成長につなげてください。



“学校”の、知られていない・見えない部分<その2>

皆さんは、文部科学省の方針を受けて、昨年度は「小学校1年生」で、そして、今年度は「小学校1・2年生」で、**35人学級編制**が実施されるようになったことをご存知ですか？ 本校は、どの学年のクラスも、30人前後ですから問題ないのですが、1クラス的人数が35人を超えてしまった場合は、学級数を1つ増やすことで対応していくのです。

また、三島市では、市内の小学1年生の全学級に、**小1支援員**が1人ずつが配置されていることはご存知ですか？ 本校でも、2クラスのどちらにも「支援員」が入り、1週間交替で、それぞれのクラスの子どもたちの生活支援にあたっています。

加えて、市からはもう1人、**低学年支援員**が配置されていることはご存知だったでしょうか？ 本校では、2年生の2クラスに、毎日2時間ずつ生活支援に入っています。

これらのことも、<“学校”の知られていない・見えない部分>に加えてもよいことかもしれませんね。この3人の存在はとても大きく、低学年の教育活動をスムーズに進めていく上で欠かせません。



1・2年生の子どもたちの中には、

「担任の指示を確実に聞き取れないため、何をすればよいか分からない」子、

「今やるべきことに集中できないため、学習や活動がなかなか進まない」子、

「自分の思い通りに行かないと、途中で活動を投げ出してしまったり、周りの子の邪魔をしてしまったりする」子など、

個別の支援を必要としているお子さんがかなりいます。

そんな担任の奮闘振りを理解されている方々からは、この3人の存在に対して、

「より多くの子へのきめ細やかな指導や、時間の無駄の短縮につながっている」

「担任が全体指導をしていて動けないような時にも、緊急時の対応やフォローができる」

……というような、ありがたいお言葉をいただいています。こうして、我が子に手厚い支援が施されていることを前向きに受け止めてくださる方々の存在をうれしく思います。



***ALTとの「外国語活動」
<ハロウィンバージョン>**

ほかにも、市からは各校に、**図書館司書**が配置され、毎日、図書室整備や図書室の本の補修、授業で使用する図書資料の提供、本の貸し出し・返却作業等にかかわってくれています。

そして、5・6年を中心に、毎週火曜日に実施されている「外国語活動」には、**ALT(外国語指導助手)**が来校します。市内の中学校で「英語」を指導している外国人の先生が派遣されてきているのです。

さらに、毎月1回ずつ実施されている「特別支援教育巡回相談」や「スクールカウンセリング」においては、**相談員**・**カウンセラー**が、それぞれ1人ずつ派遣されています。(双方ともに、資格を有する専門家です。)

いかがでしょうか、<“学校”の知られていない・見えない部分>。こんなにも多くの方が、子どもたちの学校生活を力強く支えてくれているのです。

私たちが「小学生」だった頃のことを思い起こしてください。……今の子どもたちは、ずいぶん恵まれていると思いませんか？

さて、今年度は、子どもたちの教育活動をお知らせする「学校だより『本気』」に加え、この「連携だより『つなぐ』」を発行しています。『本気』の紙面に載せきれない子どもたちの活躍や、親御さん・地域の皆様の教育活動への前向きな参画についてお知らせし、家庭・地域との連携をさらに強めていきたいと考えているのです。

なお、皆様は、**「東小学校のブログ(ホームページ)」**をご覧になったことがありますか？ できる限りタイムリーに発信しようと、こまめに更新していくよう努めています。インターネットで、**「三島市立東小ブログ」**と検索するだけで見られます。関心のある方はのぞいてみてください。

